

5 小学校国語科の授業改善のポイント

小学校 話すこと・聞くこと

設問[A1][B1一][B1二][B1三]

全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

○相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すこと。

〔A1〕（府の正答率91.7%、全国の正答率90.8%）

○話し合いにおいて、質問の意図を捉えること。話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめること。

〔B1一〕（府の正答率82.8%、全国の正答率82.5%）

〔B1三〕（府の正答率35.2%、全国の正答率33.8%）

▲話し合いにおいて、司会の役割について捉えること。

〔B1二〕（府の正答率76.0%、全国の正答率77.5%）



解説 「話すこと・聞くこと」の領域の平均正答率はAでは全国平均を上回り、Bでは全国平均と同じです。設問が求める内容を、実際の指導の場面で生徒が注意できているかを見る必要があります。

授業改善のポイント 実際の指導の中で、以下の点を確認する。

◎話すこと:

ア 相手や目的に応じた用語を選び、話の内容・順序を工夫しているか。

相手にとって理解しやすい語を使う。

イ 相手の反応(理解の状況)を見ながら説明できているか。

相手の理解に不安を感じたら「分からないことはありますか」と尋ねる、易しい語句で言い換える、追加で説明する等。

ウ 自分の説明の仕方を振り返る場が設定されているか。

◎話し合うこと:

ア (話し合いに関わる全ての児童)発言の意図を捉え、メモを取りながら聞いているか。

* 聞く側の指導の充実・・・自分の考えをもって(自分の意見と比べながら)話し合いに臨む。

発言者の立場を捉え、それについて自分は賛成か反対か等を意識しながら聞く。

* メモの取り方の指導・・・何を書き留めるか(話し手の立場や意見の理由など)、どのように書き留めるか。(短い言葉で等)

イ (司会者)話し合いの方向を見通し、状況に応じて、以下の工夫をしているか。

* これまで出た意見を整理、要約する。(互いの意見を関係付ける)

* 更に広く意見や質問を求める。

* 発言の不明な点について発言者に質問する。

ウ (発言者)話し合いの進行に沿って、立場や根拠を明らかにして発言しているか。(上記「◎話すこと」参照)

全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

○物語や推薦する文章等を書くために、文章全体の構成の効果を考えること。

〔A2〕（府の正答率75.3%、全国の正答率73.8%）

〔B2一〕（府の正答率58.3%、全国の正答率57.6%）

〔B2三〕（府の正答率70.9%、全国の正答率70.8%）

▲目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書くこと。

〔B2二〕（府の正答率13.4%、全国の正答率13.5%）

解説 課題点は、目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書くこと。


〔B2二〕は、複数の必要な情報を取り出して書くことも試されており、昨年度同様こうした情報を正確に取り出せていない(2つの情報のうち1つしか取り出せていない)という誤答が多い。(ただしふさわしい表現では書けている。これも昨年度と同様) 文章の構成を考えさせることは、自分の文章を俯瞰的に読むことになり、「読むこと」の力にも大きく関わっていると言えます。

授業改善のポイント

- ◎以前書いた文章を基に、目的、相手、文章の種類を変えて各課題を設定し、文章全体の構成や表現を考えさせる。相手意識を持たせて書かせ、その際、相手にとって必要な情報であるか等、内容についても精査する。
- ◎文章全体の構成を考える学習過程を通して、構成の効果について学ぶだけでなく、自分の作文に活かせるようにする。
- ◎様々な文章を読み、必要な情報を正確に把握して要約する文章を書かせる(「読むこと」とも関連)。その際、図示しながら整理して考えるようにする。(必要な語句を見つけて丸や四角で囲んだり、語句と語句を線でつなげる等)
- ◎推薦する文章を書く課題を設定し、推薦理由を明確にするために「他のものと比較する」という手法が効果的であることを指導する。
- ◎複数の情報を関係付けて考える機会を意図的に設定する。(低学年から取り入れる)

全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

- 目的に応じて必要な情報を捉えること。
〔A3〕（府の正答率75.2%、全国の正答率73.9%）
〔B3二〕（府の正答率52.8%、全国の正答率52.3%）
- 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むこと。
〔B3一〕（府の正答率51.5%、全国の正答率49.4%）
- 登場人物の心情を情景描写を基に捉えること。
〔A4〕（府の正答率75.1%、全国の正答率74.0%）



解説 課題点は、文章の中から必要な情報を見つけて読むこと。〔B3二〕は全国平均を上回っており、府の児童の課題である叙述に基づいて読むことの改善状況は見られるが、平均正答率が5割程度なので十分とは言えない状況です。

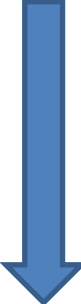
授業改善のポイント

- ◎文学的な文章では、複数の叙述を基にして登場人物の人物像を捉え、人物相互の関係や情景描写の意味を理解させる。
- ◎説明的文章では一定の分量の文章を要約させるなど、必要な情報を見つけて読む指導を行う。（「書くこと」とも関連）
- ◎図鑑や辞典などの読み方を身に付けることができるようにする。（目次や索引、見出しに着目し、図表と結びつけて読む）
- ◎目的に応じて複数の本や文章などを選んで読む課題を設定する。その際、学校図書館を効果的に活用する。
- ◎様々な伝記を読む（書き手の異なる伝記等様々な伝記を読み比べることで、人物の生き方や考え方をより深く知ることができることを実感させる）。その際、感銘を受けたり心がひかれたりした理由となる叙述を明確にしながら読むことができるようにする。また、読書の幅を広げる指導にもつなげる。
- ◎他教科等との関連を図り、国語科で身に付けたことを活用できるようにする。（他教科等の学習活動で活かすことができる機会を意図的に設定）

全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

○慣用句〔A6〕、敬語〔A7〕、漢字の読み書き・文の中での正しい漢字〔A8〕

▲文の中における主語と述語とのつながりが合っていない文の選択
〔A5〕（府の正答率37.8%、全国の正答率35.5%）



解説 昨年度は全国平均を下回る問題は、漢字やことわざなど「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」や「書くこと」に関する問題に多く見られました。今年度は「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、全ての問題が全国平均を上回っており、改善傾向が見られます。〔A5〕の設問も平均正答率は全国平均を上回っていますが、4割を切っているので引き続き以下のような指導が必要です。

授業改善のポイント

- ◎基本的な漢字の読み書きの習得には、反復練習だけでなく、授業で取り上げた文章に出てくる漢字・語句に注目させたり、実生活に結びつけた「書くこと」の指導における推敲などの指導を通して、実生活で使えるような漢字・語句指導が必要。
- ◎同音異義語、似た形の漢字、間違えやすい漢字、よく使う慣用句等を集めて紹介する。それらをカード等にして教室に掲示するなど言語環境を整えることも大切。
- ◎敬語の役割や必要性を自覚できるよう指導し、相手や場面に応じて日常生活で使い慣れるようにする。
- ◎主語と述語との関係を理解できるようにする。
 - *「だれが(何が)」「だれは(何は)」～「どうする」「どんなだ」「なんだ」
 - *書いた文章を読み返す習慣を付けるように指導(一文一文を丁寧に読み返す、声に出して読む)し、文の照応関係が正しいかどうかを確認させる。